

内田議員（民主県政会）

平成 27 年 2 月 16 日
教育長答弁実録
(教 育 委 員 会)

(問) 「学びの変革」アクション・プランにおける教育の機会均等の担保について
「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、育成すべき人材像として、「高い志のもと、世界の人々と協働して新たな価値を生み出すことのできる人材」を掲げるとともに、具体的施策として、多様な人材層の形成に向け、国際社会の平和と発展に貢献できる人材を育成する「グローバルリーダー育成校」を設置し、そこで実践する教育モデルを全県に波及させることを目指しているが、このような高度な目標設定や事業内容を示されると、今後、本県では、高みを目指す一部の子どもを対象としたエリート教育を推進するよう感じられるのではないかと思う。

昨年実施された厚生労働省の調査では、「子どもの貧困率」が 16.3%と過去最悪を更新するなど、貧困や家庭の事情で学べない子どもたちは数多くおり、また、県内の学校でも、障害のある子どもや不登校の子どももおり、一括りにアクション・プランに掲げる取組を進めれば良いというものではないと考える。

公教育においては、子どもたちに等しく教育を受ける場を確保し、教育の機会均等を図ることが一番重要であり、「高い山を創り、裾野を広げる」よりも、「裾野を広くし、高い山を目指す」施策であるべきではないかと考える。

そこで、新しい教育モデルである「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づく施策を今後実施するに当たり、教育の機会均等をどのように担保しようと考えているのか伺う。

(答)

広島版「学びの変革」アクション・プランは、グローバル化が急速に進展する中において、変化の激しい社会をたくましく生きていくことのできる資質・能力、具体的には学び続ける力を全ての子供たちに育成することを目的とするものでございます。

このような観点から、子供たちの主体的な学びを促していくことを目指し、多様な子供たちの状況に応じることのできる教育環境の整備を進めていく

こととしております。

このため、従来の定時制・通信制の枠組みに捉われず、多様な学びを提供する新しいタイプの高等学校であるフレキシブルスクールを設置することとしたところでございます。

また、アクション・プランでは、グローバルリーダー育成校のみならず、「地域の拠点となる併設型中高一貫教育校」や「複数の専門学科からなる専門高校」などについても検討を進めることとしている他、家庭の経済状況にかかわらず、学ぶ意欲のある生徒を支援できる方法の検討を行うこととしております。

このような施策を総合的に展開することにより、県内全ての子供たちに対して、グローバル化する社会をたくましく生きていくことのできる資質・能力を育成してまいりたいと考えております。